

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-75822

(43)公開日 平成5年(1993)10月15日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 1/16

H 0 4 B 7/26

機別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

1 0 9 M 7304-5K

7927-5B

G 0 6 F 1/ 00

3 1 2 K

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号

実願平4-21684

(22)出願日

平成4年(1992)3月12日

(71)出願人 000201113

船井電機株式会社

大阪府大東市中垣内7丁目7番1号

(72)考案者 森 永 健 一

大阪府大東市中垣内7丁目7番1号 船井
電機株式会社内

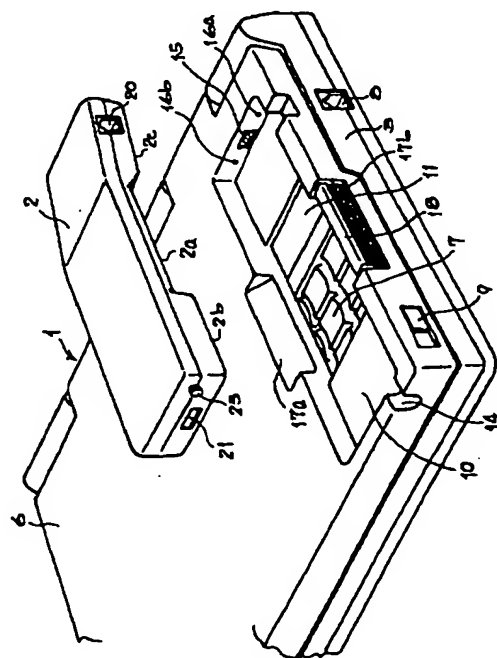
(74)代理人 弁理士 佐藤 英昭

(54)【考案の名称】 携帯用電話機付パーソナルコンピュータ

(57)【要約】

【目的】 パーソナルコンピュータに携帯用電話機を装着して、任意の場所からパソコン通信を可能にした携帯用電話機付パーソナルコンピュータを得るにある。

【構成】 制御部を備えた機体本体3と、この機体本体3に開閉自在に取付けられたディスプレイ部6とにより構成されたパーソナルコンピュータ1において、上記ディスプレイ部6に設けられた画面部5の側方に、携帯用電話機2を着脱自在に設けたことを特徴とするものである。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 制御部を備えた機体本体と、この機体本体に開閉自在に取付けられたディスプレイ部とにより構成されたパーソナルコンピュータにおいて、上記ディスプレイ部に設けられた画面部の側方に、携帯用電話機を着脱自在に設けたことを特徴とする携帯用電話機付パーソナルコンピュータ。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案による携帯用電話機付パーソナルコンピュータの概略構成を示す斜視図である。

【図 2】 図 1 の使用状態を示す斜視図である。

【図 3】 パーソナルコンピュータに電話機を装着した状態を示す要部の断面図である。

【図 4】 本考案による電話機とバッテリー端子との接続状態を示す断面図である。

【図 5】 本考案の実施例による操作レバーとラッチ爪と *

2

* の連繋を示す構成図である。

【図 6】 本考案における無線電話機の場合のブロック図である。

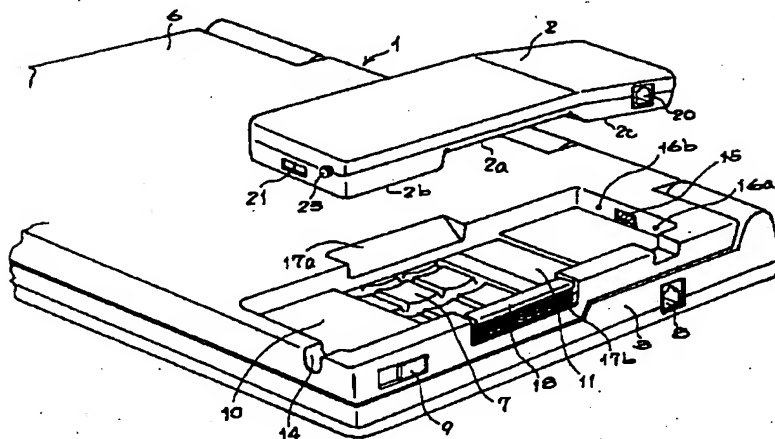
【図 7】 本考案におけるコードレス電話機の場合のブロック図である。

【図 8】 従来の電話機付パーソナルコンピュータの説明図である。

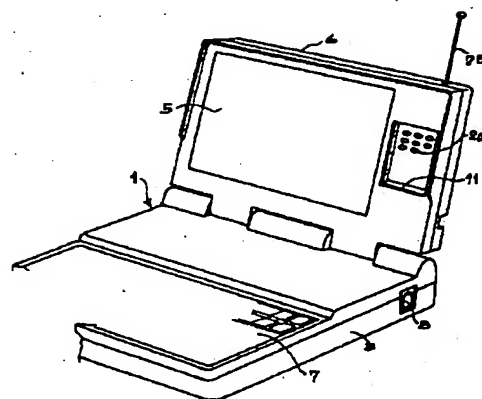
【符号の説明】

- 1 パーソナルコンピュータ
- 2 携帯用電話機（無線電話機）
- 2a テンキー部
- 3 機体本体
- 5 画面部
- 6 ディスプレイ部
- 10 凹部
- 11 窓部

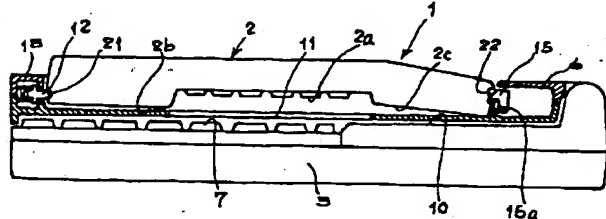
【図 1】



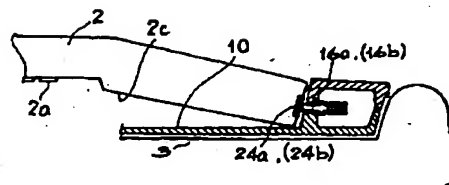
【図 2】



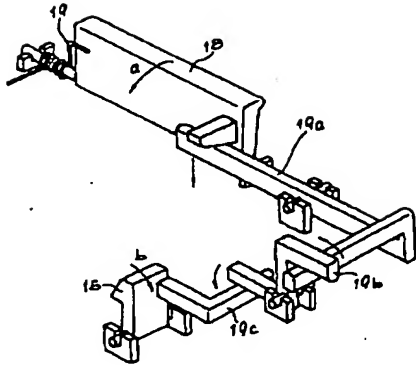
【図 3】



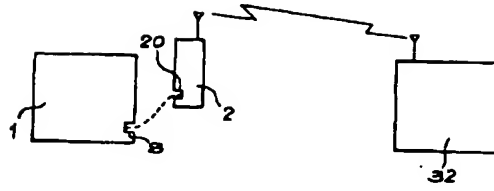
【図 4】



【図5】

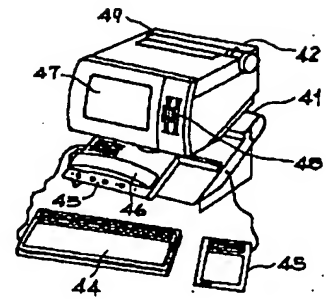
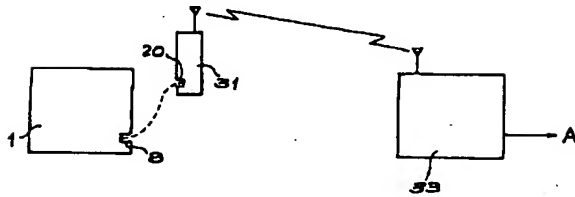


【図6】



【図8】

【図7】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、電話機付パーソナルコンピュータに関し、詳しくは、ラップトップ型やノートブック型等のパーソナルコンピュータ（ワープロのように特定の機能だけを実行するものでも良い）に携帯用電話機を装着し、任意の場所からパソコン通信を可能にしたものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来、パーソナルコンピュータに電話機能を組み込み、パソコン通信を可能にしたものが提案されており、例えば、特開平2-81557号公報などに示すような先行技術が知られている（図8参照）。

尚、図8において、41はパソコン部の装置本体を収容する本体部ケース、42は本体部ケース41上に搭載され入出力装置を収容する入出力部ケース、43は本体部ケース41の左前方に配置された電話機能部、44は本体部ケース41の前面下方に格納可能なメインキーボード、45は本体部ケース41上の電話機能部43の右側に脱着可能なテンキーボード、46は電話機能部43上に載置されるハンドセット、47はCRTディスプレイ、48はフロッピーディスクドライブ装置、49はプリンタである。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記従来の先行技術のものでは、パーソナルコンピュータが机上への設置型であり、パーソナルコンピュータの本体内に電話機の回線機能が内蔵されているので、構造が複雑で大型になると共に、任意の場所から電話回線を使用したパソコン通信を行うことはできないという問題があった。

【0004】

本考案の目的は、上記従来構造の課題を解決するために、ラップトップ型やノートブック型等のパーソナルコンピュータに携帯用電話機を装着して、任意の場所からパソコン通信を可能にした携帯用電話機付パーソナルコンピュータを得る

にある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

このような目的を達成するために、本考案による携帯用電話機付パーソナルコンピュータは、制御部を備えた機体本体と、この機体本体に開閉自在に取付けられたディスプレイ部とにより構成されたパーソナルコンピュータにおいて、上記ディスプレイ部に設けられた画面部の側方に、携帯用電話機を着脱自在に設けたことを特徴とするものである。

【0006】

【作用】

したがって、本考案によるパーソナルコンピュータは例えばノートブック型であるから携帯に便利であり、場所を選ばず使用できるというだけでなく、任意の場所からのパソコン通信が容易である。

【0007】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

【0008】

図1は本考案による携帯用電話機付パーソナルコンピュータの概略構成を示す斜視図、図2は図1の使用状態を示す斜視図であり、図において1はパーソナルコンピュータ（例えばノートブック型パーソナルコンピュータ）、2は携帯用電話機（無線電話機）である。

【0009】

上記パーソナルコンピュータ（以下パソコンと略称す）1は、内部にCPU等のモデム回路からなる制御部を備えた機体本体3と、この機体本体3に開閉自在に取付けられ画面部5を有するディスプレイ部6とにより構成されている。そして、上記機体本体3の上面にはキーボード7と図示しない各種操作ボタンが設置されており、機体本体3の側面には内蔵されたモデム部または外付けモデム部等と連結するモジュージャック8と、ディスプレイ部6の開閉用に使用されるロックレバー9と、図示しないフロッピーディスクドライブ及び各種アダプターの

挿入口やコネクタ等が設けられている。

【0010】

上記ディスプレイ部6に設けられた画面部5の側方（ここでいう側方とは画面部5の左／右／上／下のいずれかを意味する）には、外側の上面より電話機2を嵌め込むように設置される凹部10が形成されており、この凹部10の中央部には、ディスプレイ部6の凹部10に設置された電話機2のテンキー部2aが臨むように窓部11が画面部5側に貫通して形成されている。

【0011】

上記携帯用電話機2はテンキー部2aを挟んで上方に受話器2bと、下方に送話器2cとを有し、側面下方にモジュージャック20が設けられている。また、電話機2の上端面及び下端面の中央部には係合凹部21、22が形成されており、電話機2をパソコン1のディスプレイ部6に外側上面より設置したときに係合してロックされるようになっている。さらに、電話機2の上面側方にはアンテナ23が伸縮自在に設置され、下端面には一対の充電用端子24a、24bが設けられている。

上記モジュージャック20は機体本体3に設けられたモジュージャック8とコード接続するためのもので、パソコン1のモデムを介して出力される電気信号を無線電話機2或いはコードレス電話機（子機）31において変調し、無線によって基地局32或いはコードレス親機33と通信可能にするものである（図6及び図7参照）。これにより基地局32或いはコードレス親機33が接続している様々な回線への接続が可能となり、これらの回線端末との通信をも可能にするものである。また、無線は、電波の形式で行っても或いは赤外線や磁気のような形式で行っても良い。尚、図7においてAは電話回線を示している。

【0012】

上記ディスプレイ部6に形成された凹部10の上端面中央部には、図3に示すように、係合突起12がスプリング13を介して取付けられており、電話機2を設置したときに係合凹部21にバネ力により弾持してガタが防止されるようになっている。上記係合突起12の横には電話機2のアンテナ23が通る切欠凹部14が形成されている。また、上記ディスプレイ部6に形成された凹部10の下端

面中央部にはラッチ爪15が軸15aを介して回動自在に設置されており、電話機2を設置したときに係合凹部22に係脱できるようになっている。さらに図4に示すように、このラッチ爪15の左右には電話機2の充電端子24a, 24bに接触するバッテリー端子16a, 16bが設けられており、電話機2をディスプレイ部6に設置したときにパソコン1に内蔵されたバッテリーまたはACアダプター等を介して電話機2に充電ができるようになっている。

【0013】

一方、上記ディスプレイ部6に形成された凹部10の中程側方には、電話機2の着脱を容易にするための指掛け凹部17a, 17bが形成されていると共に、外側に面した指掛け凹部17bには、上記ラッチ爪15を回動して電話機2のロックを解除する操作レバー18が設けられている。この操作レバー18は、例えば図5に示すように、リンクロッド19a, 19b, 19c等を介してラッチ爪15を回動できるように連繋されており、ディスプレイ部6に設置されている電話機2を取外す場合、操作レバー18を戻しバネ19に抗して矢印a方向に握ると、各リンクロッド19a, 19b, 19cを介してラッチ爪15矢印b方向に回動し、電話機2の係合凹部22からラッチ爪15が外れて電話機2の取出しが可能になる。

【0014】

このように構成された本考案の実施例によれば、パソコン1のディスプレイ部6に設けられた画面部5の側方に、外側の上面より電話機2を嵌め込むように設置される凹部10を形成し、この凹部10の中央部に、ディスプレイ部6に設置された電話機2のテンキー部2aが臨む窓部11を画面部5側に貫通して形成したので、携帯に便利であり、場所を選ばずパソコン及び電話機2の使用ができるというだけでなく、パソコン1より電話機2を取外すことなくディスプレイ部6の窓部11より直接電話機2のテンキー部2aを操作することができるので、任意の場所からのパソコン通信が可能である。また、パソコン1に装着された電話機2はワンタッチで着脱ができるという便利さがある。

尚、上記実施例では本考案をノートブック型パソコンに適用した例で説明したが、これに限らず、例えばワープロ等にも幅広く適用できるものである。

【0015】

【考案の効果】

以上詳細に説明したように、本考案の携帯用電話機付パーソナルコンピュータは、パソコンのディスプレイ部に設けられた画面部の側方に、電話機を嵌め込むように設置したので、携帯に便利であり、場所を選ばずパソコン及び電話機の使用ができると共に、任意の場所からのパソコン通信が可能である。また、パソコンに装着された電話機はワンタッチで着脱ができるので電話機能も有するという効果を奏する。